

宇美町

町勢要覧

Umi Town Guide 2021



宇美町 町勢要覧

〒811-2192
福岡県糟屋郡宇美町宇美五丁目1番1号
TEL: 092-932-1111
FAX: 092-933-7512
発行/宇美町
編集/宇美町 総務課



宇美町

町勢要覧

Umi Town Guide 2021



宇美町 町勢要覧

〒811-2192
福岡県糟屋郡宇美町宇美五丁目1番1号
TEL: 092-932-1111
FAX: 092-933-7512
発行/宇美町
編集/宇美町 総務課

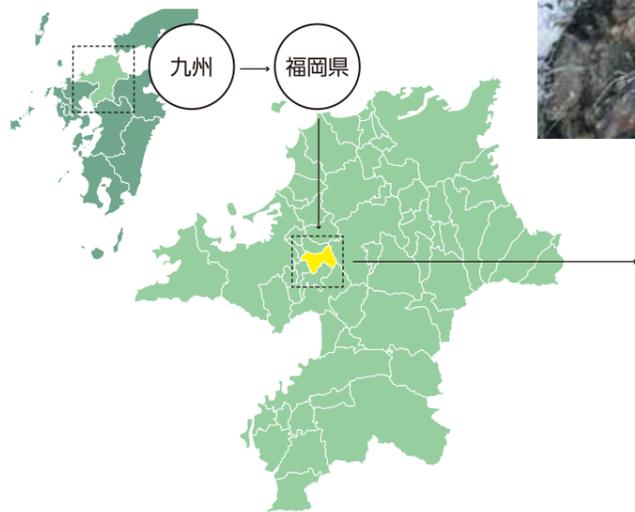
目次

かがやきのまち、宇美	4
宇美町×自然	6
宇美町×歴史	10
宇美町×特産品	14
宇美町×昔と今	18
まちの将来像	20
宇美町×健康	21
宇美町×子育て・教育	24
宇美町×共働	28
宇美町×安全	30
宇美町×産業	32
宇美町×環境	34
宇美町×行政	37
町長メッセージ	39
宇美町×100周年	40
宇美町×イベント・祭典	42



宇美町

宇美町は、福岡都市圏に属する糟屋郡の町で、西は大野城市と福岡市、北西は志免町、北は須恵町、東は飯塚市、南は太宰府市と筑紫野市にそれぞれ隣接しています。



アクセス (宇美町役場)

- JR**
 - ◎博多駅から約30分
 - 福北ゆたか線長者原駅のりかえ香椎線
 - 宇美駅下車
- バス(西鉄バス)**
 - ◎博多バスターミナルから約45分
 - ◎福岡空港から約30分
- 車**
 - ◎九州自動車道福岡インターから約20分
 - ◎九州自動車道太宰府インターから約15分
 - ◎須恵スマートICから約7分
 - ◎福岡空港から約15分

※ARの利用期限は2021年10月~2026年3月です。

AR動画を楽しめます

スマートフォンをアイコンのあるページにかざすと動画が再生されます。

- スマートフォンで「mirumiru」をインストール。
iPhoneをお使いの方はApp Store、Androidをお使いの方はGoogle Playで「mirumiru」を検索、ダウンロードします。

iPhone Android



QRコードからダウンロード



- mirumiruを起動して右記の二次元コードを読み取ります。
- 表紙および町勢要覧中面にある下記のアイコンがあるページにスマートフォンをかざすと動画が再生されます。



このアイコンがあるページはAR動画の再生ができます。



※アプリは無料ですが、ダウンロードやご利用時にかかる通信料は利用者様のご負担となります。※動作時間は回線速度・電波状況により異なります。※アプリの内容の全部または一部を利用者様に事前の告知無しに変更する場合がありますのであらかじめご了承ください。



町の花【ツクシシヤクナゲ】
ツツジ科の常緑低木で、直立するものは高さ3m、直径15cmほどになります。
三郡山系に多く自生し、耐寒性が強く筑紫路に咲く花としてひととき美しく可憐で、薄桃色の花は人々の心をなごませてくれます。

町の木【くすの木】
クスノキ科の常緑高木で、材は堅く香気があります。
宇美町の象徴ともいえる宇美八幡宮のご神木でもあり、樹齢約2000年といわれる湯蓋の森、衣掛の森で知られる大きなくすの木は、国の天然記念物に指定されています。



町章

昭和50年11月1日に、新庁舎完成を記念して正式に決定したもので、「ウ」と「ミ」を組み合わせて、全体を鳥の翼に見立てて産業と自然の調和を図りながら、町民の団結と友愛を表し、美しい緑の自然に囲まれ、福祉都市として躍進する宇美町を象徴するものです。



町のおよそ6割が
豊かな森林に囲まれている
自然あふれるまち
多くの史跡が現存している
過去と現在が融合した
歴史ロマンあふれるまち

かがやきのまち、宇美——

大正9年（1920年）10月に
糟屋郡で最初に町制を施行して
誕生した「宇美町」
令和2年10月20日には町制施行
100周年を迎えました
「一本松公園」や「四王寺山」
など四季を楽しめる自然や、「大
野城跡」や「光正寺古墳」など
史跡が多く現存する自然と歴史
が調和した町です

宇美町
×
自然

四季折々の
景色と過ごす

宇美町の地勢を見ると、東部は砥石山、三郡山、頭巾山、仏頂山などの三郡山系と、南部は四王寺山塊の大城山に囲まれた自然豊かな町で、町の面積（30・21平方キロメートル）のおよそ6割を森林が占めています。
キャンプやバーベキューが楽しめる「一本松公園」や「四王寺民の森」、360度周囲を見渡せる「井野山」などがあり、町の各所で春夏秋冬違う景色を楽しむことができます。



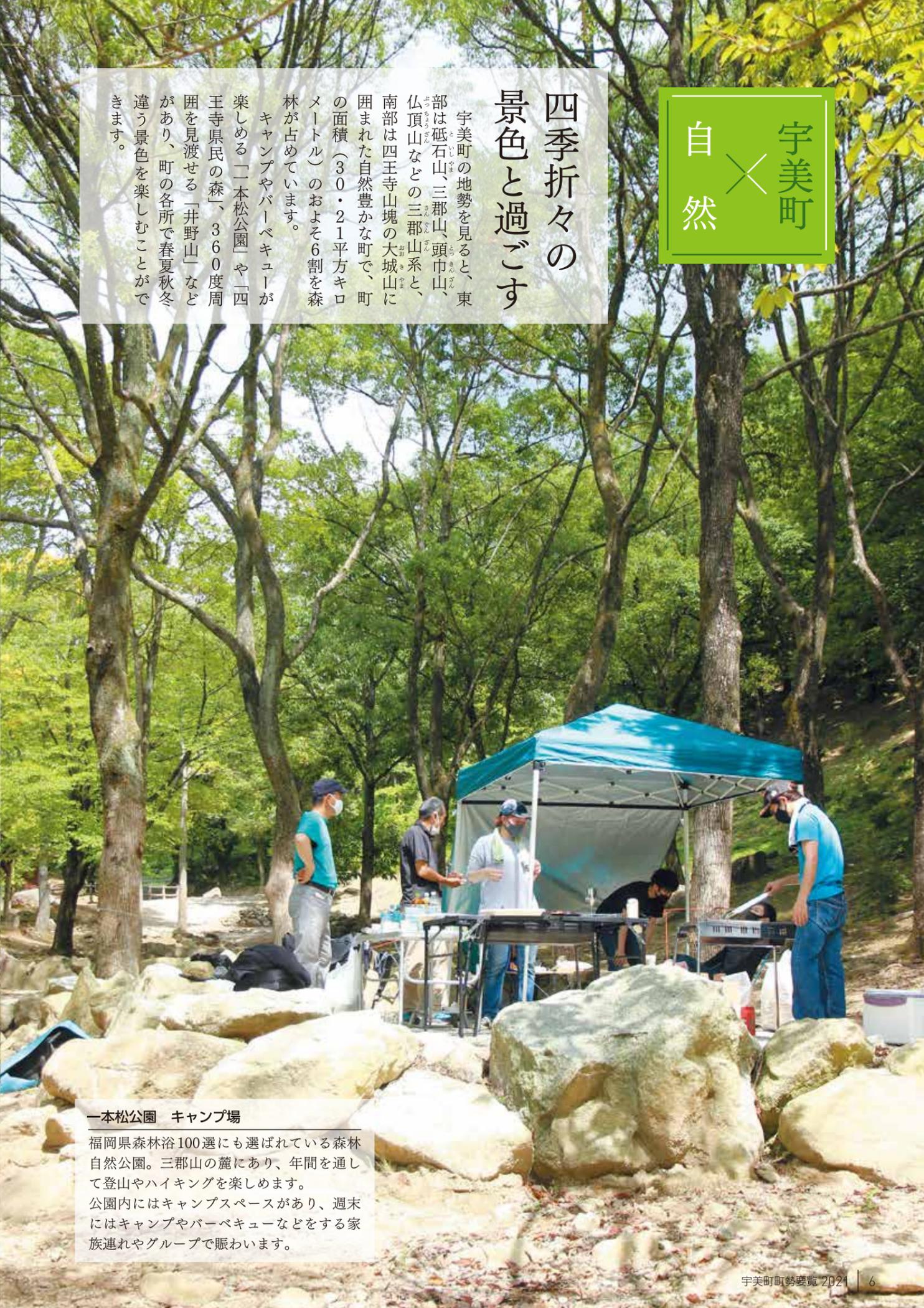
一本松公園 水遊び場

一本松公園内にある水遊びスポット。水深が浅く、小さな子どもでも安心して楽しめます。屋根付きの休憩スペースもあり、夏には多くの家族連れで賑わいます。



一本松公園 トイレ

一本松側は令和2年に、猫石側は令和3年に新しくなり、使いやすくなりました。豊かな自然を生かした一本松公園にふさわしい木造のトイレです。



一本松公園 キャンプ場

福岡県森林浴100選にも選ばれている森林自然公園。三郡山の麓にあり、年間を通して登山やハイキングを楽しめます。公園内にはキャンプスペースがあり、週末にはキャンプやバーベキューなどをする家族連れやグループで賑わいます。



河原谷の大つら (冬の難所ヶ滝)

数年に一度、冬の寒い時期になるとできる氷瀑で、三郡山の河原谷溪谷を90分ほど登ったところにあります。1月～2月にかけて、岩から染み出た水や雪解け水が岩肌をつたって氷結し、寒気が強まる時期が続くと高さ20mもの見事な大つらができることもあります。



井野山

標高236m。頂上からは360度景色を楽しむことができ、晴れた日には博多湾を一望できます。山頂付近まで道路が整備されており、子どもから大人までハイキングを楽しむことができます。戦国時代には、唐山城(賀良山城)というお城がありました。毎年1月1日には、初日の出を見る人で賑わいます。



宇美公園

宇美八幡宮の北に位置する高台の公園です。春になると桜のトンネルが現れ、花見客で賑わいます。

緑道公園(旧国鉄勝田線)
旧国鉄勝田線跡地を利用した遊歩道です。宇美町内に約5km、志免町内に約6kmの全長約11kmです。道沿いに配置された日本庭園や桜並木を見ながら、ウォーキングを楽しむことができます。



四王寺泉民の森
宇美町、大野城市、太宰府市にまたがる四王寺山にあり、季節ごとに違う森林浴を楽しむことができる自然公園です。学習研修館や学習展示館も併設されており、森林について学ぶこともできます。



宇美町
歴史

宇美神楽

昭和48年(1973年)に福岡県無形民俗文化財に指定された宇美神楽は宇美八幡宮の春の「子安大祭」と秋の「放生会」で奉納される神楽です。
笛、太鼓の音と共に口上で語られる遠い昔の神話と、上品で優雅な舞を観賞しに多くの人が訪れます。



子安の石

安産祈願を終えた妊婦が“お産の鎮め”として石を預かって持ち帰り、めでたく出産の暁には、別の新しい石にお子さまの名前などを記して健やかなる成長を願い、安産御礼(初宮詣)の御祈願にてお祓いの後に、預かった石と一緒に納めるのが慣わしとなっています。

「宇美」の始まり
宇美八幡宮

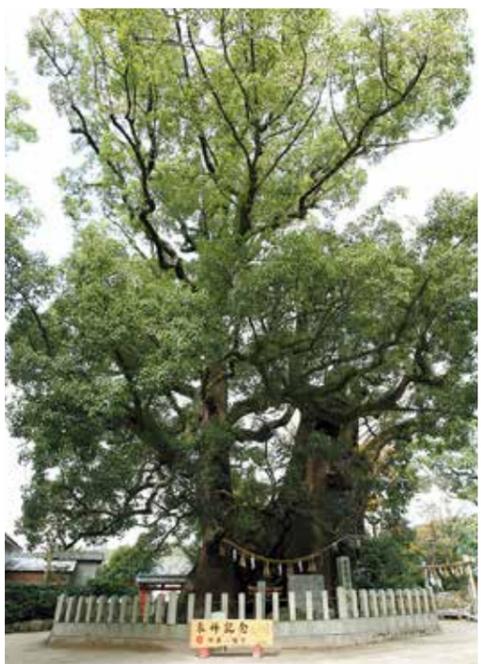
6世紀後半の敏達天皇の時代に創建されたといわれており、新羅から帰国した神功皇后が應神天皇を出産された地と伝えられています。時の人は、このご産処の故をもってその地を「宇美」と号したことから、後の宇美町が生まれました。

境内には、国指定天然記念物である「衣掛の森」や「湯蓋の森」、持ち帰れば安産になるといわれている「子安の石」など安産に関する言い伝えが数多く残り、多くの人が安産祈願に訪れます。

また、子どもたちの健やかな成長を願う春の大祭「子安大祭」や五穀豊穰を感謝し生けとし生けるものの生命を慈しむ秋の大祭「放生会」など、年間を通してさまざまな催しが行われており、多くの町民で賑わいます。



国指定天然記念物 衣掛の森



樹齢約2000年といわれる1本の大きなクスノキの木で、国の天然記念物に指定されています。神功皇后が應神天皇をご出産された際に、産衣を掛けられたところから名づけられたといわれています。その大ききから、1本のクスノキの木でも「衣掛の森」と呼ばれています。

国指定天然記念物 湯蓋の森

樹齢約2000年といわれる1本の大きなクスノキの木で、国の天然記念物に指定されています。神功皇后が應神天皇をご出産された際に、このクスノキの下で産湯を使い木の枝葉が産湯の上に蓋をしているように見えたことから、この名がついたといわれています。その大ききから、1本のクスノキの木でも「湯蓋の森」と呼ばれています。



大野城跡

おののしょうあと

大野城跡は、宇美町・太宰府市・大野城市にまたがる四王寺山に築城された全長約8kmにおよぶ広大な古代山城跡で、城内の約8割が宇美町に所在します。

7世紀の初め頃、朝鮮半島では、高句麗・百済・新羅の三国が戦争を繰り返していました。660年、新羅は中国を統一した唐の援助を受けて百済に攻め入り、百済を滅亡させました。百済の遺臣に救援を求められた倭国は、それに応じ、663年、百済を救援するため、朝鮮半島に出兵します（白村江の戦い）。

救援に向かった倭国でしたが、唐・新羅連合軍に敗れてしまいます。この結果、連合軍の日本侵攻が想定されたため、664年に大宰府政庁（九州の政治拠点）を防衛するための水城を造り、その後、665年に大野城が築城されるのです。つまり大野城は、大宰

府政庁が攻撃された時に備えた籠城のためのお城であつたといえます。

平成27年に太宰府市が認定された日本遺産「古代日本の『西の都』〜東アジアとの交流拠点〜」が令和2年に拡充され、宇美町は、「国特別史跡大野城跡」と「万葉集筑紫歌壇」の関連自治体として追加されました。

百間石垣

全長約180mにもおよぶ立派な石垣で、内部まで石を積んでいる「総石垣」構造となっています。



日本最古の古代山城



日本遺産「古代日本の『西の都』〜東アジアとの交流拠点〜」の概要

大宰府政庁を中心としたこの地域は、東アジアからの文化、宗教、政治、人などが流入・集積するのみならず、古代日本にとって東アジアとの外交、軍事拠点でもあり、軍事施設や都市機能を建設するのに地の利を活かした理想の場所でした。1300年前の古代国際都市「西の都」を現代において体感できる場所です。

日本遺産

（Japan Heritage）とは？
地域の歴史的魅力や特色を通じて我が国の文化・伝統を語るストーリーを「日本遺産（Japan Heritage）」として文化庁が認定するもの。



糟屋地域を支配した王の墓 光正寺古墳

光正寺古墳の築造年代は、出土した土器などから3世紀後半頃と考えられており、県内の前期古墳の中でも最古期の古墳に位置付けられています。また、光正寺古墳は糟屋郡最大の前方後円墳であることから、古墳の被葬者は、当時糟屋地域を支配した権力者の墓と考えられており、耶馬台国や卑弥呼に関して記述されている歴史書「魏志倭人伝」にある、「不彌國」の王墓とも推定されています。



宇美町
特産品



KOYASU FARM



マルト醤油醸造元

ヤギのミルクを使用した
「アイス」

ヤギミルク100%で作られた口当たりがなめらかで、さっぱりとした後味のアイス。マグネシウム、カリウム、ビタミンなどが多く含まれており、栄養価が非常に高く、赤ちゃんも食べられるアイスです。



子を思う気持ちを形に

ヤギのミルクには昔から母乳の代わりに飲まれてきたという歴史があります。赤ちゃんに大きくなってほしいと思って飲まれているミルクの歴史も、宇美町がずっと安産を願ってきた歴史も、どちらも同じ親心です。

そんなふたつを掛け合わせることで作ったアイスを、宇美町から「産み愛す」として発信することで、子育てのしやすい町と思い、住む人も増えてくると思います。また、町外の人にも届けることで、宇美町は「子どもを産むこと、育てることをみんなで大事にしている町」というイメージを持つこともできます。

宇美町の歴史も住んでいる人たちもみんな幸せになり、次世代の子どもたちに宇美町のいい歴史を残せたら、すごくいい町づくりになると思います。はじめました。

interview



KOYASU FARM
小林さん

ふるさとの味「醤油」

「我が家の味」「ふるさとの味」として昔ながらの味を守りつつ、風味豊かな出汁や柚などを使った今の生活スタイルにあった商品も作っています。

ふるさとの味をいつまでも

宇美町で醤油作りを続ける理由は、先代が宇美町ではじめてということが一番の理由ではありますが、宇美町は宇美八幡宮があるように、歴史があり、雰囲気がある町だと思っています。山や川があり、自然の中でお醤油作りができるところが魅力で、作り続けていきます。

宇美町で生まれ、大人になり結婚して遠方に行かれる方が多いですが、それでも昔の醤油がいいと、マルト醤油を送ってくださいと言ってくれます。そんなお客様に直接送っています。おばあちゃんになっても、マルト醤油をずっと使い続けてもらえるかもしれないと思えるのは、お醤油屋さんとしてありがたいです。とてもいい仕事だなと思います。

interview



マルト醤油
山元さん





筑前福岡



萬代

目利き・計量
 明太子の品質を保つために、繰り返し選別を行います。長時間にわたる作業で、肩や首が痛くなることもあります。ありますが、これは、合成着色料を使わずに無着色の品質の良い明太子を作るために欠かすことのできない作業とのことでした。

熟成させる
 漬け込みは選別されたスケトウダラの卵の状況で温度、湿度、時間を調整しながら行います。基本的に3日間程度漬け込みます。

調味液につける
 昆布のだしや、唐辛子などを使った調味液につけます。明太子の味や、風味付けをする工程です。



宇美町障子岳で創業「明太子」

全て手作業で作られる昆布漬辛子明太子は、昆布とたらこの2つの素材が互いの旨味を引き出し、絶妙なハーモニーを醸し出します。

明太子ができるまで

目利き・計量



熟成させる



調味液につける



創業200年の技術で作る「日本酒」
 創業から「旨い酒」づくりにこだわり、守り、受け継がれてきた技術で作るお酒は品評会や博覧会などで高い評価を受けています。日本酒の原料となる米や水は福岡県産のものを使用し、地元福岡にこだわった酒造りをしています。



地元こだわったお酒造り

初代小林作五郎が宇美の地を「都邑を愛にたつとも、ゆたかなるべきところなり、青山四方にめぐりて、景色もうるはし、佳境と云うべし。」と自然豊かな環境を気に入り、この地で酒造りを始めたのが萬代の始まりだといわれています。
 酒造りをするうえで非常に重要な役割を担う「水」は、三郡山系の伏流水(地下水)を宇美町の障子岳から引いて使用し、萬代の酒造りには欠かせないものになっています。
 先代が愛した自然の恩恵を受けながら、これからもおいしいお酒を造っていかれたらと思っています。



宇美町
昔と今

過去から今へ
今から未来へ

たくさんの人々の思いをのせて
宇美町は町制施行100周年を迎
えました。
もっと子育てしやすい町へ、も
っと暮らしやすい町へ、も
っとにぎわいのある町へと、町の「未来」
が始まります。





宇美町

健康

ともに創る 自然とにぎわいが 融合したまち・宇美

安心して産み
育てることができる
子育て・子育てのまち

地域の創意と主体性を
生かした共働による
地域づくり

都市機能の集約と自然、
歴史的・文化的資源の活用
によるにぎわいの創出



「子育てするなら宇美で」を合い言葉に、子育て世代の定住促進のため、子どもを産み育てる環境の充実と、多世代が関わり合いながら社会全体で子育てをサポートする環境づくりを進め、「子どもを産み育てやすいまち」「子どもが健やかに育つまち」をめざします。



自治の根本理念である「自助・互助・共助・公助」のもと、町民と行政が「共にまちづくりを担う主役である」という意識を持って、お互いの長所を生かしながら共働して公共サービスに取り組み、町民の力が地域に生きる、より暮らしやすい魅力あるまちづくりをめざします。



道路整備や都市施設などの集約を行うとともに、一本松公園(昭和の森)などの豊かな自然、宇美八幡宮や大野城跡などの歴史的・文化的資源を活用し、町民の交流や観光客・来訪者を増やして新たなまちのにぎわいの創出をめざします。

人に優しく、
健やかに暮らせるまち

介護予防教室

高齢者(65歳以上)が介護を要する状態にならずに、自立した生活が続けられるように、小学校区ごとの高齢者を対象に小学校区内の公共施設において、運動や脳トレ、レクリエーション、健康相談などを週1回(午前中2時間)実施しています。運動は専門の講師が行っています。



集団健康診査

健診・がん検診

40歳〜74歳を対象に生活習慣病の一次予防として特定健康診査や特定保健指導を行っています。特定健康診査の対象者以外の方でも、フレッシュ健康診査や後期高齢者健康診査を利用し、健康診査を受診することができます。

また、40歳以上を対象にした胃がん・大腸がん・肺がん・乳がん検診、20歳以上の女性を対象にした子宮頸がん検診も行っています。一定の年齢の人を対象とした子宮頸がん・乳がんの検診では、無料クーポン券の配布を行っています。

運動の促進



平成31年度から、健診結果に基づく生活習慣の改善のうち、「運動」に着目した健康づくりについて、すべての小学校区地域コミュニティにおいて運動習慣の定着を促進することを目的とした取組を行っています。具体的な取組の一つとして「スロージョギング教室」を実施しています。「スロージョギング」とは、「隣の人と話ができる程度の運動強度」で行うジョギングです。適切な運動強度は人それぞれ違うものですが、乳酸が急増するランニング速度よりも遅い速度で走ることによって、疲労がたまらず楽しく継続しやすいのが特徴です。

Check Point

手話リーフレット・広報うみ

2006年、国連総会で障害者権利条約が採択され、「手話は言語」と定義されました。

町では、ろう者が人として平等に生きていくために手話通訳者設置・派遣事業を行い、手話奉仕員養成講座も行っていきます。

2018年には、宇美町聴覚障害者部会と宇美町手話の会で、手話の啓発を目的とした「手話リーフレット」を制作し、広報うみの折込として、全世帯へ届ける活動を行いました。さらに、現在、町の広報誌「広報うみ」内の「手話コーナー」で、毎月手話のワンフレーズを紹介しており、手話単語の普及を促進しています。

今、「手話リーフレット」のメッセージ【伝え合う“手話の輪”が広がるといいな】の温かい思いが、町中に広がっています。



広報うみ



手話リーフレット



乳幼児健康診査



子どもが生まれもつ「自分自身で育つ力」を支えるとともに、心身の健やかな成長発達のために、乳幼児健康診査を行っています。保健師が行う育児相談では、保護者の方と一緒にお子さんの成長を確認し、育児で困っていることなどを解消する場としています。

小児生活習慣病予防健診（うみっ子健診）



町が実施している16歳～39歳が対象のフレッシュ健診で、生活習慣病を引き起こす可能性のある方が多くいることをうけ、平成30年度から小学5年生を対象として、うみっ子健診を実施しています。子どもたちは大人の生活習慣の影響を受けながら成長していき、やがて自己の生活習慣を身に付け、実行していくようになります。生涯にわたって生活習慣病を予防する力を身に付けることができるよう、また、子どもの生活習慣づくりを通して、家族の生活習慣を見直すきっかけとなるよう、保健師などによる保健指導を実施しています。

高血圧ゼロのまちづくり

高血圧性疾患の増加は、町の健康課題の1つです。町は、疾患の原因となる高血圧が起る理由や、高血圧の危険性を町全体で学び予防するために、「日本高血圧学会による「高血圧ゼロのまちづくり」をめざすモデルタウンの公募に応募し、認定されました。

取組内容は、主題を「血圧を学ぶまち」副題を「高血圧を知らない人ゼロのまち」として、次の6つのテーマで展開していきます。

- ① 高血圧基準と塩分摂取基準を知らない人ゼロ
 - ② 自己の血圧を知らない人ゼロ
 - ③ 自己の塩分摂取量を知らない人ゼロ
 - ④ Ⅲ度高血圧（180/110mmHg以上）者ゼロ
 - ⑤ Ⅱ度以上高血圧（160/100mmHg以上）未治療者ゼロ
 - ⑥ Ⅱ度以上高血圧者への保健指導未実施ゼロ
- 塩分の取りすぎは、生活習慣病をはじめ高血圧心疾患、腎臓疾患などの病気と密接に関わることが知られています。令和2年度から、町が実施している集団健診の項目に1日推定塩分摂取量を調べる検査を追加しました。自己の塩分摂取量を知ること、減塩の必要性や食生活の見直しを考えるきっかけとなり、減塩を意識した生活になることを目指します。



宇美町子育て支援センター ゆうゆう

「ゆうゆう」は、町に住む就学前の子どもとその家族が気軽に来館し、自由に過ごすことができる施設です。また、妊娠中のお母さん、お父さんもご利用いただけます。保育士や経験豊富な子育てサポーターが常駐していますので、お子さんのことで気になること、お悩みがある方にも安心してご利用いただけます。たくさんの方との出会いや交流が生まれ、みんなで楽しみ、支え合っていく場所として、地域の人たちからも愛されています。

Check Point

子育てハンドブック

子育てに関する手続きや制度などについて、町民の皆さんに分かりやすく伝えるため、子育てに関する情報を一冊にまとめた「子育てハンドブック Uming (うみんぐ)」を毎年発行しています。Uming (うみんぐ) という名前には、子育ては「現在進行形」、「はみんぐ」するように楽しくなるようにとの願いが込められています。妊娠期から子育て中の方を対象に、こどもみらい課 (うみハピネス)、宇美町役場、子育て支援センターで配布しています。



宇美町こども教育総合支援センター うみハピネス



うみハピネス 窓口の様子

令和2年1月に、町の母子保健部門と子育て部門を教育委員会に編入し、「うみハピネス」を拠点として、妊娠、出産から義務教育に至るまで、切れ目なく総合的に支援を行う体制を整備しました。「うみハピネス」には、こどもみらい課や学校教育課の窓口のほか、「子育て世代包括支援センター」、「子育て支援センターゆうゆう」、「ファミリー・サポート・センター」、「トレーニングルーム」などの施設があり、親子のさまざまな支援などを行っています。

保育園の民営化



柳原保育園

町の認可保育所には、令和3年4月現在、町立3園、私立5園の合計8園の施設があります。さまざまな保育ニーズに対応可能な民間活力を活用し、安定的で柔軟な保育行政の充実を図るため、令和2年4月に町立貴船保育園の民営化を実施し、続いて町立柳原保育園を民営化する予定としており、これに伴い待機児童解消の実現をめざしています。

スポーツ活動の推進

すべての町民が生涯にわたり気軽にスポーツへ参加し、健康の増進や体力の向上が図れるよう、スポーツ関係団体と連携し、スポーツ活動の環境づくりに取り組んでいます。

多様化したスポーツ環境において、町のスポーツ活動の一層の推進を図るために、令和2年度、国のスポーツ基本計画、県のスポーツ推進計画を参考に、町のスポーツ推進計画を策定しました。

計画では、「運動・スポーツの機会の充実」「運動・スポーツ環境の充実」「運動・スポーツによる地域活性化」の3つの基本目標を掲げ、各種団体などと連携し、基本理念である「スポーツで輝く元気なまち宇美」生涯にわたる豊かなスポーツライフを」の実現をめざし、総合的なスポーツ活動を推進しています。



宇美町教育の日

町民の教育への関心と理解を深めるため「宇美町教育の日」を定めました。町で育つ子どもたちが、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができるよう、町の学校、家庭や地域社会が連携して教育の充実と発展を図ることをめざしています。11月の第2土曜日を中心に、この趣旨に沿った取組を推進していきます。



教育の日宣言をする佐々木教育長

教育の情報化

文部科学省が提唱する「IGAスクール構想」の早期実現に向け、町内小中学校におけるICT環境の整備を行いました。児童生徒1人1台の情報機器端末（Chromebook）や、高速大容量に対応した校内通信



ICT機器を活用し授業を行う様子

ネットワーク（Wi-Fi）、各教室への大型テレビ（50型・4K対応）、校内放送設備（デジタル映像）の整備が令和2年度中に完了し、インターネットを活用した学習や遠隔授業、校内におけるテレビ放送など、さまざまな場面において、ICT機器の活用が期待されます。

また、これらのICT機器を円滑に運用するため、専門知識や技能を有するICT支援員（2人）を各学校に配置し、教職員に対するICT機器の基本操作の指導や、授業での運用支援、活用方法の研修などを行っています。

多様な子どもたちを誰一人取り残すことのない、公正に個別最適化された学びを持続的に実現し、児童生徒における情報活用能力育成のため、今後も効果的な活用を図っていきます。

宇美町立図書館

町立図書館は読書をはじめ、町民一人ひとりの多様な学習活動を支援しながら、さまざまな情報の収集や発信の拠点になることを目指しています。また、子どもたちの感性や情操を培う場を作るとともに、多世代間の交流を促進し、心の豊かさや潤いを実感できる時間と空間を提供できるように、常に明るい雰囲気と環境を整え、利用サービスの充実を図っていきます。



電子図書館

令和2年の新型コロナウイルス感染拡大の影響で、図書館を含む公共施設は休館を余儀なくされましたが、「図書館が休館でも町民の皆さんに本をお届けできるように」という思いで、令和2年12月に電子図書館を開設しました。

パソコンやタブレットがあれば利用できるため、来館が困難な場合でも時間・場所を選ばず利用することができます。

また、町内の小中学生が電子図書館を利用することで、学びを止めず自己の課題解決能力を育むことに役立っています。

図書館を使った調べる学習コンクール

平成19年・20年度に、文部科学省が全国10地域に委託した「子ども読書の街」づくり事業に取り組みしました。

平成21年度から始めた「宇美町図書館を使った調べる学習コンクール」の取組では、家庭や地域、学校、保育所や幼稚園、町立図書館、関係行政機関相互の「結びつき」が重要であることを確認しました。そしてこの取組は、本町の子ども読書活動を代表する事業として全国的にも高い評価を得ています。



コンクールの作品展示

学校施設改修



小中学校長寿命化計画に基づき行われた宇美中学校体育館改修

児童・生徒のみならず、すべての住民が利用する上で求められる安全性・機能性・快適性を備える施設であり続けるようにと策定した小中学校長寿命化計画に基づき、学校施設整備を行っています。近年では、桜原小学校校舎と内部トイレの改修、宇美中学校体育館の改修、児童・生徒の快適な学習環境を確保するため、小中学校の普通教室などにエアコンの設置を行いました。今後も、学校教育施設・設備の整備や学校の防災対策を講じるとともに、安全で安心な学校づくりを推進していきます。



まわし読み新聞作成の様子



外国人の方への日本語支援の様子

共働事業提案制度

町民活動団体と行政が互いの長所を生かしながら、共働してまちづくりを実現するために、共働事業提案制度を実施しています。魅力あるまちづくりを実現するため、さまざまな事業に取り組んでいます。

新聞記者の方を招いての新聞づくりや町にお住いの外国人の方への支援やコミュニティづくりなど、町民活動団体と行政が共働でさまざまな事業を実施しています。



移動図書館の様子

地域コミュニティの推進



登下校時の見守り



一本松公園の清掃

近年のさまざまな地域課題を解決するために、小学校区単位の新たな地域コミュニティ組織である小学校区コミュニティ運営協議



卓球交流会



桜原小学校区グラウンドゴルフ大会

会を設立しました。町民と行政が「共にまちづくりを担う主役である」という意識をもって共働し、「宇美町に住んでよかった」と思えるまちづくりを進めています。

近年、少子高齢化や核家族化、生活様式の変化などにより、社会情勢が急激に変化する中、高齢者の生きがいづくり、安全安心なまちづくりの推進、子育て支援などの地域課題への対応が求められています。町民と行政が暮らしやすい町を築いていくためにパートナーシップを確立し、それぞれの責務と役割を認識し合い、認め合い、尊重し合い、対等な立場で、共に考え、共に協力し、共に行動できる町民参画のまちづくりを実現するために、「共働のまちづくり」を推進しています。

ボランティア・町民活動支援センター「ふみらぼ」



交流会の様子

「ふみらぼ」では、町の皆さんが行うボランティア活動などの自主的で公益的な活動の支援を行っています。また、ボランティア活動の情報と交流の拠点として、ボランティア交流会などの事業も実施しています。



宇美町消防団

宇美町消防団は、令和3年4月現在、10の分団、156人で組織しています。団員それぞれが仕事もちながら、火災・風水害などの災害発生時には、消火活動や災害復旧活動に従事し、町民の生命と財産を守るために昼夜を問わず活動しています。

平常時から、消火・防火などの訓練を行い、訓練の一環として開催している「消防団ポンプ操法大会」では、県下でも優秀な成績を収めています。また、地域への警防活動や「はしご乗り」などの伝統技術の保存・披露を行うなど、防災意識の普及・啓発のためのさまざまな活動を行っています。



防犯パトロール

粕屋警察署少年補導員宇美支部会では、「青少年の非行防止及び青少年を取り巻く環境の浄化」を目的として、夜間や学校長期休暇中のパトロール、町内施設の立ち入り調査、路上違反広告物撤去作業などの活動を行っています。



交通安全

宇美町交通安全対策協議会は、町内における交通安全を図るための基本的な施策と適切な実施を期すために、関係行政機関および団体と連携を取りながら交通事故を絶滅し、町民福祉の増進に寄与することを目的としています。町内における交通事故防止に関する事項について協議し、宇美町交通安全計画策定などにも携わっています。

また、粕屋地区交通安全協会では、宇美町交通安全対策協議会と連携し、JR宇美駅前広場での交通安全街頭キャンペーン(年4回)をはじめ、町内の保育園、小学校、子ども会などでの交通安全教室、町が実施するイベントの交通指導などの活動を行っています。



防災

自然災害はいつ、どんな形で起きるかわかりません。また、高齢化の進展により、災害発生時に支援が必要の方が増えていくことが予想されます。

本町では昭和48年(1973年)水害を契機として、消防・防災業務に対する施設や設備の整備に取り組んでいます。

す。宇美町土砂防災ハザードマップ、防災ハンドブックの作成や、宇美町防災気象情報システムを導入し、町内各所に設置された雨量計・水位計・ライブカメラから雨量や河川水位などの情報をインターネットで確認することができます。また、「システム内の「防災メール」は、登録者へ気象情報や町からの緊急情報などを配信しています。

現在、各地域で「自主防災組織」の設立や「防災土」の育成が進められており、消防団と自治会や民生委員などの地域の方々との連携を緊密にすることで「防災力」が高まり、災害時の対応が強化されるだけでなく、防災意識の向上につながるものと考えています。

また現在、町では、有事の避難所運営において新型コロナウイルス感染症対策を講じるための資機材の整備を進めています。



防災訓練の様子

消費者対策

糟屋中南部地区五町(宇美・志免・須恵・粕屋・篠栗)で共同運営する「かすや中南部広域消費者センター」が、志免町地域安全安心センター12階に開設されています。

センターでは、悪質商法、多重債務、架空請求、利殖商法など、契約や取引に関するトラブルについての相談受付、解決のためのアドバイス、斡旋、情報提供を行っています。

また、宇美町役場庁舎内においても相談窓口を開設しています。(毎週火曜日、午前10時から午後3時30分)



祈願米・うみまちハーブ

宇美町農業委員会では、町制施行 100 周年記念町民提案自主事業として「町制施行 100 周年健康祈願米」を製作しました。町の清流の恵みをたっぷり含んだ宇美町産のお米、元気つくしを使用し、宇美町農業委員会の委員の皆さんが一つずつ手作業で丹精込めて袋詰めを行い、宇美八幡宮にてご祈願いただきました。町制施行100周年バスデーイベントのメイン会場にてご来賓の方々への記念品として配布されました。

また農業者の高齢化や担い手不足などで、農業離れによる農地の荒廃化が懸念されるため、平成 28 年度から宇美町では休耕田を活用し農業所得の向上と地域の活性化対策として薬用作物の試験栽培を行っています。宇美町薬用作物生産部会が、「ミシマサイコ」「ヤマトトウキ」「ヒュウガトウキ」「ローズマリー」など7種類を栽培しています。また、町で栽培される薬用作物を「うみまちハーブ」のブランドで特産品や六次産業化を行っています。「うみまちハーブ」は漢方薬や化粧品原料のほかに、福岡県立宇美商業高等学校と共同により商品化された「かりんとう」の原材料として使用されています。



祈願米



ヤマトトウキ



ローズマリー

Check Point

会長 合屋 昭輝 さん

宇美町商工会は大正 10 年 (1921 年) に設立されました。現在町内の商工業者は約 1100 事業所あり、うち商工会の会員は約 600 事業所です。



商工会で実施している事業として、商工業に関する相談や情報提供など事業者活動支援のほか、地域経済の活性化を目的としたプレミアム付き地域商品券の販売や、宇美八幡宮放生会での商工まつり、ふみの里まなびの森フェスタでの出店、宇美駅前広場を活用したイベントなど、地域の活性化を図った取り組みについても幅広く行っています。

今般の新型コロナウイルス感染症の拡大により世界中で混乱が広がっていますが、宇美町商工会では、町内で影響を受けている事業者へのサポート等に引き続き尽力しながら、今後も行政と連携を密にし、さらなる商工業の振興・発展を目指して地域に密着した活動に取り組んでいきます。

宇美町商工会

行政と商工会が共働して、
活気あふれる地域づくりと
商工業の発展を目指す

商工会と行政が協力し合いながら商工業の活性化、課題解決を図り、地域の賑わいの創出や魅力的なまちづくりの実現に向けた取組を進めています。



ごうら 河原のしずく

新規水源開発を目的に平成 12 年度から平成 16 年度まで岩盤地下水資源調査を実施しました。その調査過程において掘削した井戸の有効利用のため、岩盤地下水の給水を行っています。

広く皆さんに利用してもらえるように、地下水の愛称を公募し、「宇美の岩盤地下水 河原のしずく」に決定しました。
地下 120m から汲み上げた、三郡山系が育んだおいしい水です。



住みやすい環境づくりを進めるまち

宇美町は、福岡市近郊に位置し、福岡空港まで車で約20分と立地的に恵まれています。また、町の西側には南北に九州縦貫自動車道が走っており、南側には太宰府インターチェンジ、北側には須恵スマートインターチェンジがあり、広域的な交通幹線網が整っています。

なるアクセス向上を図るため、都市計画道路志免宇美線も整備が進められており、一部区間で供用開始されています。これらの道路整備により、さらに近隣の他市町へアクセスしやすい町へと変化しています。

町の道路網は、主要地方道筑紫野古賀線（県道35号）、主要地方道飯塚大野城線（県道60号）、主要地方道福岡太宰府線（県道68号）の3つの県道によって骨格が形成されています。これらの道路は、交通量が多く、場所によっては交通渋滞が発生していることから、より安全で円滑に走行できる広域幹線道路ネットワークの構築に向け、交通混雑緩和のための道路の拡幅や歩道の設置が進められています。また、福岡都市圏へのさら



主要地方道筑紫野古賀線（県道35号）



都市計画道路志免宇美線

住宅団地の造成

宇美町は、昭和40年代から平成の始めにかけて、各地で大型住宅団地の造成が行われ、福岡市のベッドタウンとして、成長を続けてきました。昭和40年代に桜原住宅団地造成が始まり、同50年代には、とびたけ、ひばりが丘、四王寺坂、同60年代には、ゆりが丘の住宅団地造成が行われました。

平成に入り、貴船ガーデンヒル、神山手の住宅団地造成が行われ、その結果、人口が増加していきました。現在も小規模の宅地造成が各地で行われています。なお、昭和50年代に造成が開始された四王寺坂団地の大きさは、約452,000㎡もの面積になります。



四王寺坂団地開発前

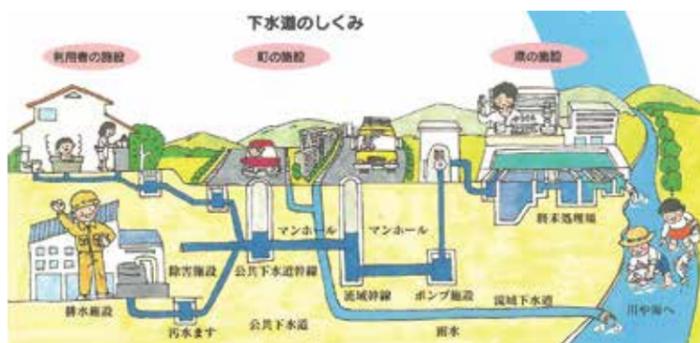


四王寺坂団地開発後

上下水道設備



障子岳浄水場



下水処理のしくみ

町の上下水道事業は、令和2年度末現在の給水人口36,085人、行政区内人口37,345人に対する普及率96.6%、年間の総配水量は、3,329,010³m³となっています。

自己水源が乏しかった当町では、予測されていた給水人口と水道使用量の増加に備えるため、昭和46年、福岡地区水道企業団（福岡都市圏の市および町で組織、現在6市7町1企業団1事務組合で組織）に加入し、町外からの水源の確保により

将来の水需要増加に備えました。この広域的な水源の確保で、現在では、日量7,725³m³の受水が可能となっています。

これまでに、幾度かの大きな渇水を経験しましたが、近年では断水の実施に至ることなく安定的に給水できるようになっています。

今後は、老朽化した配水管の更新工事、3箇所の浄水場（障子岳、山の内、柳原）のろ過池・配水池の改良・更新などの施設の更新を実施し、安全・安心な水の安定供給を行ってまいります。

下水道事業は、県が実施する多々良川流域下水道に接続する流域関連公共下水道で整備を行ってまいります。汚水処理場は粕屋町の多々良川浄化センターを利用しています。

令和2年度末現在の処理区域内人口32,932人、行政区内人口37,345人に対する普及率88.2%、下水道整備区域面積は、670.8haで、全体計画区域面積1,023haに対して、65.6%となっています。

今後も計画的に整備工事を実施し、普及促進に努めてまいります。

上下水道事業は、重要なライフラインとして将来にわたって安定的にサービスを提供できるよう事業運営を行ってまいります。

宇美志免リサイクルセンター エコル

経済の発展によって生活が豊かになった反面、ごみの搬出量は年々増加し、その種類も多様化していることから、環境への負担が少ない循環型社会を築くため、また、ごみの減量や積極的なリサイクルを行うために、宇美町・志免町共同提携により「宇美志免リサイクルセンター エコル」を平成21年に建設しました。

町では、もえるごみ、容器包装プラスチック、飲料用缶類・飲料用びん、ペットボトル、もえないごみ、電池・体温計・蛍光灯、粗大ごみ、新聞、雑紙など、ダンボール、古布に分ける分別収集を行っており、エコルでは、工場棟において3ライン処理を1日5時間稼働で行い、缶・びん処理を1日あたり3.8トン、ペットボトル・プラスチックの処理を1日あたり2.7トン、不燃・粗大ごみを1日あたり5.5トンの合計12トンの処理を行っています。

また、場内の管理啓発棟においては、管理室、60人収容の研修室、工作室、展示ホールを設け、住民に対する循環型社会へ向けた意識啓蒙、環境教育を行っています。



宇美町

行政



宇美町役場

宇美町では、効果的、効率的な行政運営を行い、元気で活力ある町づくりをさらに進めるため、令和2年（2020年）1月に機構改革を行いました。

これからも、町民の皆さんに信頼され相談しやすい「存在」となるように職員一人ひとりの住民サービスの向上に努めます。

庁舎の1階が
大規模リニューアルしました

通路の幅を広くし、案内表示も色やマークを用いてより分かりやすくすることで、だれもが使いやすい、明るく温かな空間をめざしました。



窓口の様子



宇美町長 安川 茂伸

私が掲げる

5つのビジョン

国も地方も人口減少という時代の転換期にあります。その中で私たちは、いかに活力を生み出していかかという課題に取り組んでいかなければならないと考えています。そこで私は、次の5つのビジョンを掲げ、新しい宇美町づくりにチャレンジしてまいります。

1つ目は、宇美町に息づく豊かな自然や、貴重な歴史的・文化的資源、そして伝統を大切に、次の100年に向けて、全ての町民が「ふるさと宇美」を誇りに思えるまちづくりを進めてまいります。

2つ目は、宇美町の宝である子どもを安心して産み・育てることができ、新しい時代に対応した教育を受けることができるまちづくりを進めてまいります。

3つ目は、全ての町民が健康寿

命を延ばし、支え合いながら安心して暮らせるように保健・福祉が充実したまちづくりを進め、アクティブなシニア層が地域のさまざまな活動に参加しやすい機会づくりに取り組んでまいります。

4つ目は、毎年のように発生している災害に備えるため、防災・減災体制の一層の強化を図り、あらゆる災害に強い安心・安全なまちづくりを進めてまいります。

最後に、5つ目は、宇美町の恵まれた立地条件をいかすために急務である交通網の整備、常態化している道路渋滞の解消に取り組めます。加えて、公共交通の充実を図り、快適な移動が可能となるまちづくりを進めてまいります。

私が政策を進めていくうえでの物差しは、それが「町民のためになるのか？」という一点です。これから仕事を進めていくうえで、常に、町民の皆さんのためになっているのかと自問自答しながら、一つひとつの課題を解決していくことによって、現在、宇美町に住んでくださっている方の満足度を上げるだけでなく、他の地域に住んでいる方に、宇美町に興味を持ってもらい、「住んでみたい」と選んでいただける町をめざします。

宇美町議会

町議会は、12人（令和4年3月6日から4年間の任期）の議員で構成され、町民の代表として奉仕者として、積極的に活動しています。



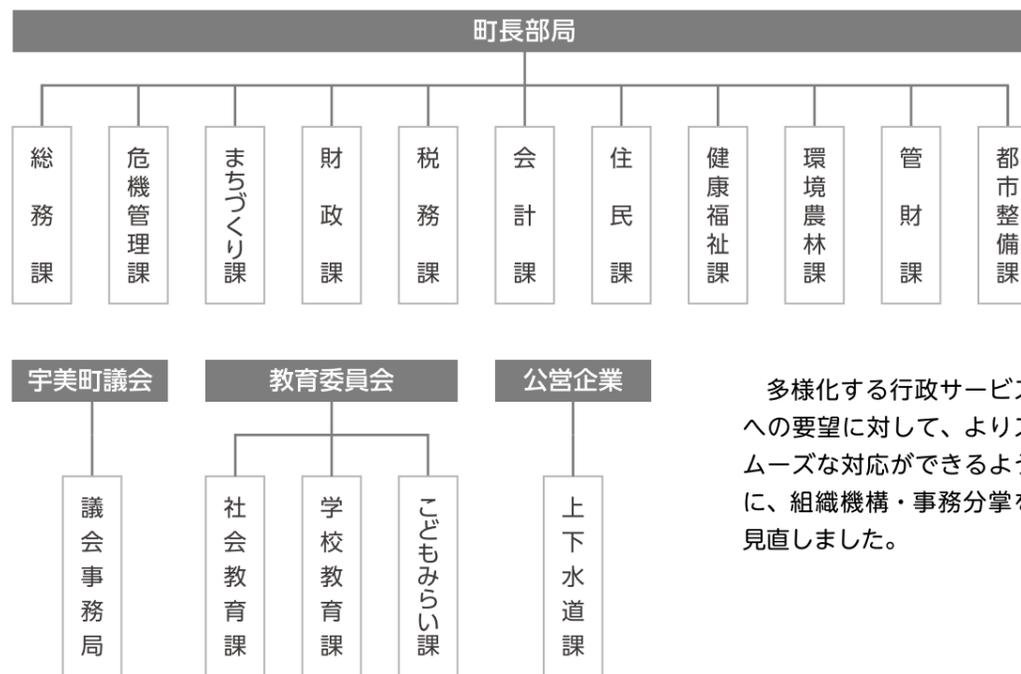
議会
だより

町政と町民の架け橋として、5月・8月・11月・2月にうみ議会だよりを発行しています。

令和4年2月20日執行 宇美町長及び宇美町議会議員一般選挙の結果を受けて、令和4年3月6日から庁内・議会の体制が変わったことに伴い、関連するページの内容について、一部追加・改訂を行いました。

Check Point

組織機構を見直しました



多様化する行政サービスへの要望に対して、よりスムーズな対応ができるように、組織機構・事務分掌を見直しました。



宇美町長 木原 忠

宇美町の100年、これからのまちづくり

宇美町は大正9年(1920年)に町制が施行され、令和2年(2020年)に、町の誕生から100年目となる大きな節目を迎えました。この間、昭和38年の炭鉱閉山までは炭鉱の町として栄え、その後以降は福岡市のベッドタウンとして発展してきました。

また町内には、神功皇后が應神天皇を出産された地として日本書紀に記述がある宇美八幡宮や、日本最古の朝鮮式山城で、平成27年に築城1350年を迎えた大野城跡の一部があります。この史跡は国の特別史跡として指定を受け、また令和2年度には日本遺産にも

登録されました。さらに、魏志倭人伝に記述がある「不彌国」は宇美町という学説もあるなど、歴史的にも由緒ある土地柄です。加えて、三郡山系の麓の一本松公園や、冬に見られる河原谷の大つらら(通称・冬の難所ヶ滝)など、豊かな自然と素晴らしい名所・旧跡が数多く存在しています。他方、福岡市を中心に17市町で構成された福岡都市圏に立地していることから、都市化も進んでいます。

近年、社会情勢の変化に伴い、人々の価値観や行動様式なども多様化する中で、町には、このような二面性が有機的に機能するまちづくりが求められるところです。今後のまちづくりの展望としては、「数は力なり」という言葉もあるように、既に住んでいる方には継続して住んでいただく、そして、町外からは1人でも、1家族でも多くの方に移り住んでいただくなど、人的基盤の充実拡充を図りつつ、町の活力を高めていく必要があると思っています。そのためには、人々や時代のニーズに即した施策などを展開する中で、自分たちの地域・町に誇りを持ち、「この

宇美町議会

町議会は14人(令和4年3月6日から12人)の議員で構成され、本会議や委員会等、よりよい町政の実現に向けて議論を重ねています。



議会だより

議会活動状況を分かりやすく伝えるため、気軽に手に取って読んでいただける広報を目指して作成しています。(年4回発行)

町に住んでよかった」「この町に住みたい」と実感してもらえることが何よりも大事だと考えています。この実現に向けては、地方創生という大きな流れの中で、企業誘致などによる民間活動の活性化をはじめ、就労や起業の機会の拡大、物流・人流などの促進につながる環境整備や条件整備に取り組む必要があります。地元の商工農林業の振興はもちろんですが、こういった営みを下支えするのが道路です。当町の道路状況は幹線道路も少なく、狭隘な道路が多いため、日常的に渋滞が続いているのが現状です。町民の安全で安心な生活を守るとともに、企業の進出を促進し、雇用を通して人口増加へとつなぐ

ために、道路網の整備が急務であると考えています。宇美八幡宮が立地する当町には、古くから子どもや子育てを大切に思う文化や風土といった気質があるように感じています。複雑化する現代社会にあって、さまざまな課題などが派生していますが、町では、このような町の特性を生かしたまちづくりや、時代的な課題の解消という観点に立って取組を進めているところで

す。具体的には、子育てと教育の有機的な連携が可能となるよう、それぞれの領域を所管するセクションを教育委員会部局に配置し、0歳から義務教育を終える15歳まで、一人一人の子どもに関する情報を共有し、切れ目なくきめ細やかな支援ができる体制を整備しました。その一環として、子育てと教育を総合的に推進する拠点を設置しました。これまで子育て世代の方々に対する支援や相談など、それぞれが対応していた多岐にわたる機能をこの拠点に集約したことで、子どもに関することの殆どは、ここで対応できるようにしました。

まだまだ課題は山積しています。宇美町が進めるまちづくりの理念は「共に働く」と書く「共働」です。「まち」をつくるのは「人」ですから、まちづくりのキーワードは、やはり人づくりだと考えています。コロナ社会を経験した今、コロナに学んだ教訓を生かし、今後とも、地域のコミュニティを核としながら、町民の皆様とともに、新たな宇美町づくりにチャレンジしていきたいと思っています。

「わたしの夢・未来の宇美町」想いを込めてバルーンリリース!!

～風船が届けた想い～



原田小学校



井野小学校



宇美東小学校



宇美小学校

町制施行100周年バースデーイベントの中でメインイベントとして行われたバルーンリリース。自分の夢や未来の宇美町を書いたメッセージと金魚草の種を付けて空に放った約2500個の風船は、遠く離れた場所に住む方にも届き、Twitter・はがき・手紙・FAXなどで「風船を拾った」と複数の方からメッセージが届きました。



桜原小学校



宇美南中学校



宇美中学校



宇美東中学校



100周年
宇美町

会場の様子



「しあわせに込めて」を歌う相川理沙さん

宇美町は、2020年10月20日に町制施行100周年を迎えました。当日には、100周年を祝うバースデーイベントが宇美八幡宮で行われ、町内外から80人が参加しました。

宇美町町制施行100周年
バースデーイベント
「100年分のありがとうを未来へ」

大分県日田市から届いたメッセージ

自宅で庭木の枝を刈り込んでいたら、キンギョソウの種が入った袋とメッセージを見つけました。枝に引っかかっていたのです。メッセージには宇美中学校（福岡県宇美町）の女子生徒の手で「笑顔溢れる平和な世界をつくる」という本人の夢と、生徒が住んでいる町の長所が書かれていました。夫が宇美中学校に電話して尋ねたら町制100周年記念事業の一環として、町内の小、中学生が風船にくくりつけて大空に飛ばした物の一つだと分かりました。県境を越えて届いた種は袋ごと床の間に飾っています。いずれタイミングを計って植えるつもりです。新型コロナで暗くなりがちでしたが、思わぬ贈り物が私を笑顔にしてくれました。

大分県別府市から届いたメッセージ

今日屋根に引っかかってました！福岡県の宇美町から大分県の別府市まで届くとは！金魚草の種は家の鉢植えに蒔きますね！アリガトウ♡

佐賀県基山町から届いたメッセージ (抜粋)

飛ばした風船は私の花壇に届きました。金魚草の種は、花壇に蒔いて毎日観察しています。今日で1週間、待つことが大事です。焼き鳥屋になる夢、トリマーになる夢、大事に育てて欲しいです。ありがとうございました。ではまた。

「じっけんしゃになりたい」というメッセージがついた風船を拾った方から

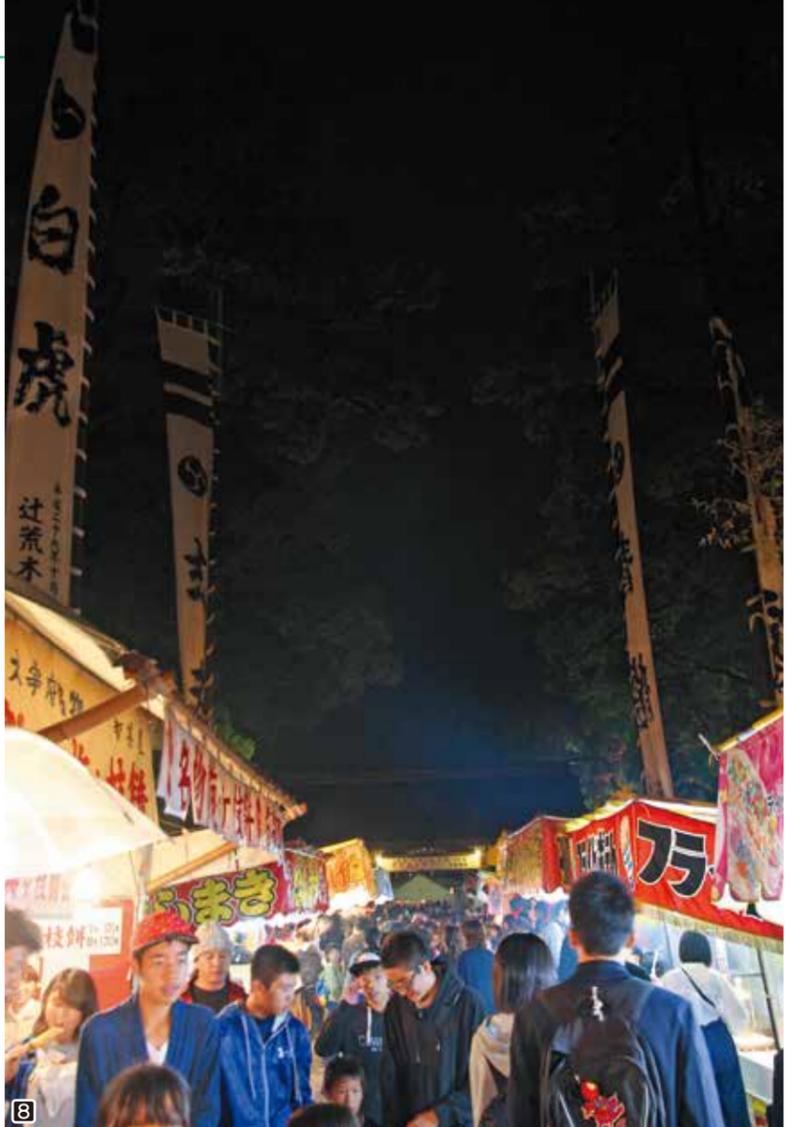
うみまちのみなさんがとばしてくれたふうせんが、とんできました。どうもありがとう。おじさんはとなりの「おおいけんべっぶし」ではなのじっけんをしています。ぜひ、あそびにきてください。

イベントでは町長が「次の100年を担う次世代に、しっかりとバトンが渡せるよう、鋭意努力してまいります」とあいさつし、町出身のシンガー・ソングライター相川理沙さんが100周年記念ソング「しあわせに込めて」を披露しました。



バルーンリリースの様子

秋
冬



春
夏

宇美町
イベント・祭典

町を彩る
催し・祭事

秋
冬

5 6 心みの里 まなびの森フェスタ [11月]

活動発表や合唱、少年少女の主張大会など、多彩な催しが行われます。ワークショップなどもあり、毎年多くの人で賑わいます。

7 毘沙門詣り [1月]

大野山にある毘沙門堂に参拝し、お堂の前の盆の中からお金を借りて帰り、翌年2倍にして返し、また新たにお金を借りるというのを繰り返すとお金に不自由しないと言い伝えられています。

8 放生会 [10月]

毎年10月に行われる宇美八幡宮の秋の大祭です。提灯が灯され神楽や相撲が奉納されます。生命の尊さを知り、生かされていることに感謝し、五穀豊穡を神々へ感謝する祭りです。

9 御誕生祭 [1月]

宇美八幡宮の祭神である應神天皇御降誕の日に年に1度の大祭が行われていました。現在では、1月5日を「御誕生祭」と定め、祭典を執り行っています。

1 子安大祭 (稚児行列) [4月]

子どもたちの健やかな成長を祈願するお祭りです。宇美八幡宮から約700m離れた井野地区にある頓宮まで神官を先頭に神輿や稚児、古式衣裳をまとった氏子の御神幸が隔年で行われます。

2 夏越祭 [7月]

夏の無病息災を祈願するお祭りです。半年の罪・穢れを祓い清める「茅の輪」をくぐり、疫病退散を祈ります。

3 山開き・安全祈願祭 [4月]

1年間の登山者の安全を祈願するための安全祈願祭が開催されます

4 町民文化のつどい [5月または10月]

町民の皆さんの芸術文化の発表の場で、日本舞踊・ダンス・楽器演奏などの舞台発表や絵画・写真・工芸・書などの作品展示が行われます。

春
夏